

平穏な明日を情報の力で。



公安調査庁

PUBLIC SECURITY INTELLIGENCE AGENCY

総合職・一般職

職員採用案内

「情報の力」と「人の力」を信じて

物事を判断し、決断するためには、情報が必要です。正しい情報なしには、物事を前に進めるどころか、判断を誤って失敗してしまうこともあるでしょう。

私たち公安調査庁は、そんな「情報の力」を信じて、激動する国内外の情勢の中で、我が国がしっかりと道を歩み、安全で安心な社会を維持できるよう、情報のプロフェッショナル集団として日々活動しています。

AIに代表されるように社会の技術革新は急速に高度化し、オンライン空間には、悪意のある偽情報を始め、玉石混交の情報が溢れています。そのような時代でも、真相を示す情報の多くは、人の中にあります。そのような情報を引き出し、また、大量の情報の真偽を見抜いて多角的に分析することは、簡単ではありません。

相手の心を開くため、丁寧に耳を傾け、信頼を築く。溢れる情報の海で、真相を見つける。――私たちは、AIやネット検索ではたどり着けない「人の力」を信じています。

私たち公安調査庁は、「情報の力」と「人の力」を信じ、日本のインテリジェンスの一翼を担っています。多様な個性と発想を持つ皆さんが、情報のプロフェッショナル集団の一員として加わってくださることを期待しています。

公安調査庁長官 田野尻 猛



公安調査庁 2026
採用案内
CONTENTS

- 01 | 長官メッセージ
- 03 | 公安調査庁の機能と役割
- 05 | 組織と拠点
- 07 | キャリアパス
- 09 | 調査部の業務と役割
- 10 | インテリジェンス有識者からの寄稿 01
- 11 | 他省庁出向／在外公館
- 13 | 研修／幹部登用制度
- 14 | インテリジェンス有識者からの寄稿 02
- 15 | 幹部職員インタビュー
- 17 | 職員による座談会
- 20 | ワークライフバランス
- 21 | インテリジェンス有識者からの寄稿 03
- 23 | ドキュメンタリー（経済安保）
- 25 | Q&A／採用情報
- 26 | 次長メッセージ

※有識者の方の寄稿は個人の立場で寄稿いただいたものであり、公安調査庁の見解を反映しているものではありません。

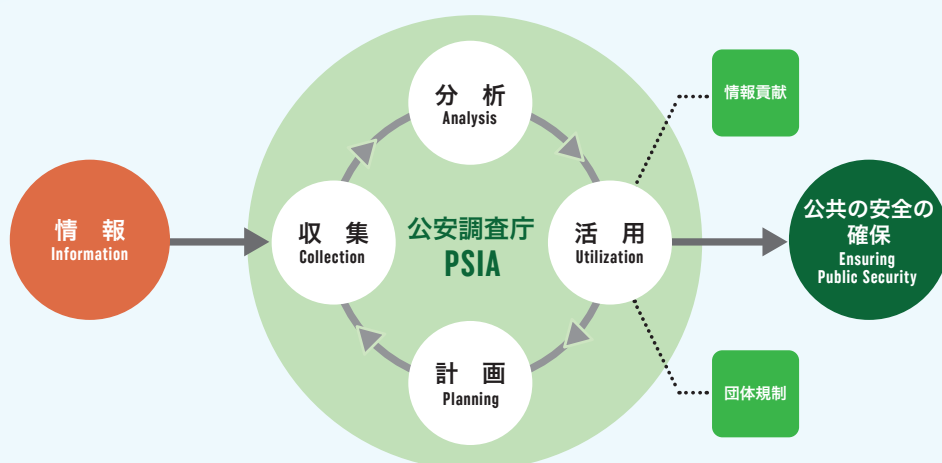
【 公安調査庁の機能と役割 】

確実な情報を活用して、公共の安全を確保する。

公安調査庁は、昭和27年7月21日、破壊活動防止法の施行に伴い、同法に規定する破壊的団体の規制に関する調査及び処分の請求に関する事務を一体的に遂行するために設置された行政機関です。また、平成11年12月27日には、無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律(団体規制法)が施行され、無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する調査、処分の請求及び規制措置に関する事務が付加されました。

公安調査庁は、これらの法律に基づいて、暴力主義的破壊活動を行う危険性のある団体についての調査、規制請求等を行い、もって我が国の公共の安全の確保を図ることを任務としています。

また、調査を通じて得られた、国内諸団体の動向、経済安全保障やサイバー空間上の脅威、国際テロや北朝鮮・中国・ロシアといった周辺国等の情勢など、国内外の諸動向に関する情報を分析し、官邸を含む政府関係機関等に適時・適切に提供しています。



ヒューミント（人的情報収集）

ヒューマン・インテリジェンス(Human Intelligence)、すなわちヒューミント(Humint)とは、人的情報とも呼ばれ、人間同士のやり取りによって収集される情報を意味します。公安調査庁は、このヒューミントの収集を最大の強みとしており、情報を持つ相手と根気強く面談を重ね、良好な人間関係を築くことで相手の心を開き、「あなたのためなら」と情報の提供を受けることが業務として求められます。

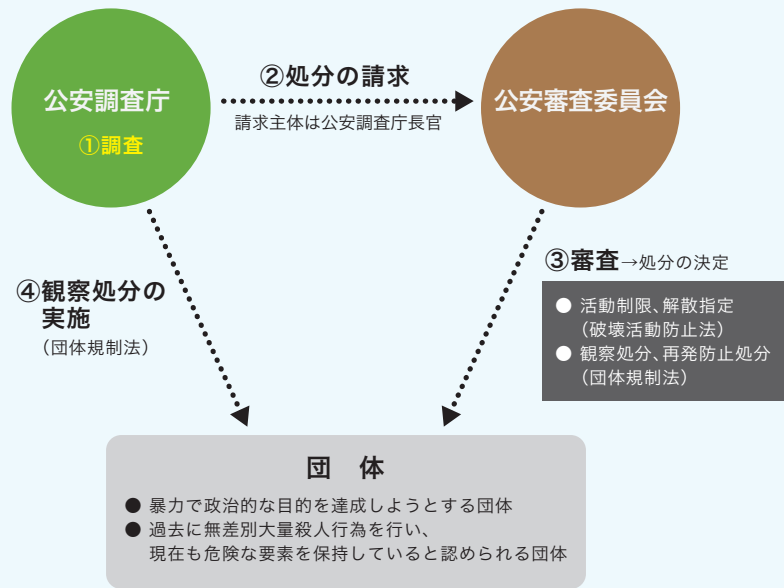
ヒューミントの収集方法に正解はなく、絶対に必要な能力はありません。多様な背景を持つ相手から有益な情報入手するには、調査官個人の個性・経験・知識等を活かし、創意工夫をして忍耐強くアプローチしていくことが重要となります。すなわち、調査官個人がこれまでの人生で培ってきた様々な形の「人間力」が肝要となるのです。



Mission 1 団体規制

公安調査庁は、破壊活動防止法に基づいて、暴力主義的破壊活動を行う危険性のある団体について調査を行い、規制の必要があると認められる場合には、団体の規制に関して審査及び決定を行う機関である公安審査委員会に対し、その団体の活動制限や解散指定の処分の請求を行います。また、団体規制法に基づいて、過去に無差別大量殺人行為を行った団体について調査を行い、規制の必要があると認められる場合には、公安審査委員会に対し、観察処分や再発防止処分の請求を行います。

なお、観察処分に付された団体に対しては、当該団体の活動状況を明らかにするために、報告徴取、団体施設への立入検査などの規制措置を行います。

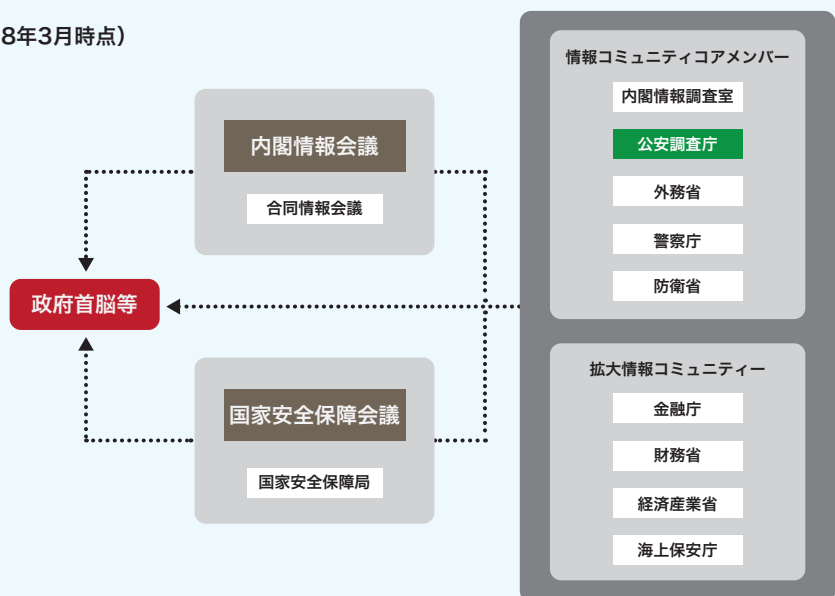


Mission 2 情報貢献

(令和8年3月時点)

公安調査庁は、我が国の情報関係機関で構成される情報コミュニティのコアメンバーとして、官邸のほか、内閣に置かれた内閣情報会議とその下に設置されている合同情報会議、国家安全保障会議と同会議を補佐する国家安全保障局等に情報提供しています。

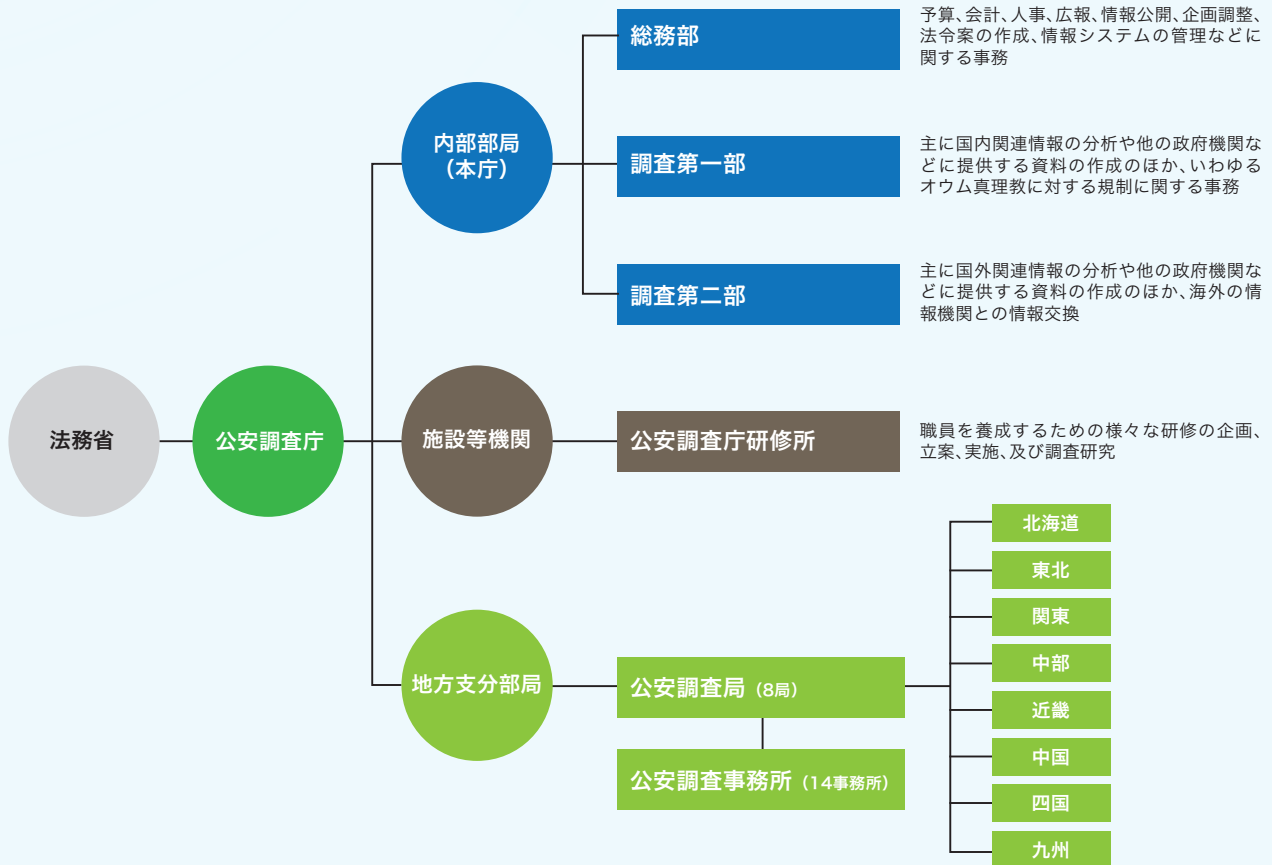
我が国の情報機能の一翼を担う公安調査庁は、こうした情報提供を通じ、政府の施策決定やテロの未然防止等に貢献することで、公共の安全への脅威に対する抑止力として機能しています。



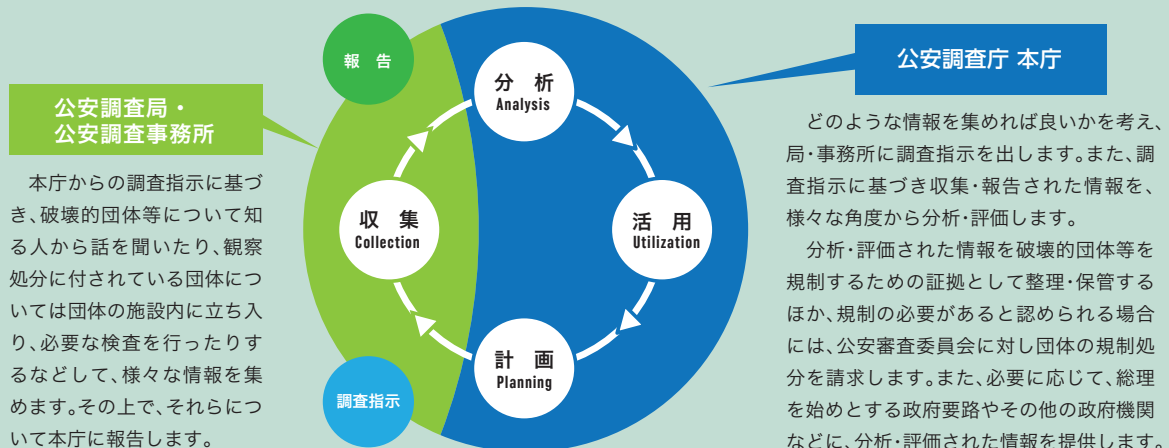
【 組織と拠点 】

全国ネットワークの力で、情報を手にする。

公安調査庁の組織は、下図のように内部部局、施設等機関及び地方支分部局からなり、内部部局として総務部、調査第一部及び調査第二部の三部、施設等機関として公安調査庁研修所、地方支分部局として全国に公安調査局及び公安調査事務所があります。



各機関の役割分担



公安調査庁のネットワーク

東北公安調査局

仙台と盛岡を拠点に、広大な東北6県を管轄しています。経験豊富かつ優しい上司の指導の下、スキルを磨き、成長できる環境が整っています。また、育児休業などの各種制度を活用する職員も多く、働きやすい職場です。

〒980-0821
宮城県仙台市青葉区春日町7-25
仙台第三法務総合庁舎
TEL:022-721-2701



北海道公安調査局

都市機能がありながら、四季の移り変わりと豊かな自然を感じられる北海道というフィールドで、あなたの能力を試してみませんか。なまら広い心を持ったやさしく前向きな仲間達が皆さんをお待ちしています。

〒060-0042
札幌市中央区大通西12 札幌第三合同庁舎
TEL:011-261-9810



中部公安調査局

中部公安調査局が所掌するエリアは、東海北陸6県です。管内には、若手の職員であっても、自ら仕事に関する企画・立案をする雰囲気があります。また、フレックスタイム制度などを利用する職員も多く、公私の両立を図りやすい職場環境です。

〒460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸4-3-1 名古屋法務総合庁舎
TEL:052-951-4531



中国公安調査局

中国局の魅力は、職場の風通しの良さです。温かい人柄の先輩が多く、手厚いフォロー体制のもとで若いうちから様々な仕事にチャレンジできます。瀬戸内の豊かな自然の下で、オン・オフ共に充実した社会人生活を送ることができます。

〒730-0012
広島県広島市中区上八丁堀2-31 広島法務総合庁舎
TEL:082-228-5141



公安調査庁本庁



本庁は、組織内で唯一情報の分析機能を担う、組織の司令塔です。本庁には、本庁採用の職員だけでなく、現場から個性豊かな職員が集まってくるので、様々な個性を受容する雰囲気があります。そのような組織の司令塔に一年目から配属される総合職職員には、経験豊かな先輩職員が、優しく丁寧に業務を教えてくださいます。多くの中央省庁が集まる霞が関で、公共の安全のために働く仲間をお待ちしています。

〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-1-1
中央合同庁舎6号館
TEL:03-3592-5711



九州公安調査局

「アジアの玄関口」である九州は、海外との往来が盛んな国際的な地域の一つです。九州公安調査局での業務は幅広く、日々、様々な分野で情報収集を行っています。最前線で一緒に働く仲間を募集しています。

〒810-0073
福岡県福岡市中央区舞鶴3-5-25
福岡第1法務総合庁舎
TEL:092-721-1845



近畿公安調査局

令和4年度に新庁舎に移転した近畿公安調査局は清潔で明るく、快適なオフィス環境です。また、京都市及び神戸市に公安調査事務所が設置されており、関西の主要都市で調査業務に励むことができます。

〒540-0008
大阪府大阪市中央区
大手前3-1-41 大手前合同庁舎
TEL:06-6943-7771



関東公安調査局

職員数全国最大規模の関東公安調査局は、人や情報が集中する首都・東京を含む関東甲信越地域に静岡を加えた、広範で多種多様なフィールドを抱えます。我が国の安全・安心のため、私たちと共に現場業務をリードし挑み続ける仲間を、心からお待ちしています。

〒102-0074
東京都千代田区九段南1-1-10
九段合同庁舎
TEL:03-3261-8585

四国公安調査局

小規模局のため、一人ひとりをきめ細やかにサポートできます。若手のうちから、OJTで実務経験を積めるので、日々の成長を実感できます。その分、自ら企画・立案し、個性を発揮して活躍できる機会も早く訪れます。

〒760-0033
香川県高松市丸の内1-1
高松法務合同庁舎
TEL:087-822-6666

【那覇公安調査事務所】

〒900-0022
沖縄県那覇市樋川1-15-15
那覇第一地方合同庁舎
TEL:098-853-2948

キャリアパス

ゼネラリストか、スペシャリストか。

公安調査庁では、調査業務、分析業務、総務部業務、他省庁出向など、各職員が幅広い職務経験を積み重ねます。採用区分を問わず、各職員が自身に合ったキャリアを積み重ね、調査官として成長していきます。

総合職

将来の幹部要員としてのゼネラリスト人材

求められる役割

総合職職員には、多数の部下職員を管理するマネジメント能力や、幹部要員として公安調査庁を牽引していくリーダーシップ力などを持つゼネラリスト人材としての役割が求められます。そのため、様々な部署や他省庁での勤務を通して幅広い知見・経験を積むこととなります。

異動・転勤

霞が関の本庁で採用された後、概ね2年目から公安調査局などにおいて情報収集現場の実務を経験します。その後、2～3年のサイクルで本庁や公安調査局などにおける情報収集、情報分析、企画調整、管理等の様々な職務や、在外公館や他省庁などへの出向を経験します。

モデルケース

室長級職員

本庁調査第二部（役職：室長級）

本庁の室長級職員として勤務し、あるプロジェクトのリーダーに任命される。自分の裁量で決められることが増え、一層責任感を持って業務に臨むことを決意。

中国局調査第二部（役職：首席調査官）

本庁勤務を挟んだ後、中国局で初めて管理職として勤務。多くの部下のマネジメントを実際に行い、管理職の職責の重さを再認識する。

外務省へ出向（役職：係長級～課長補佐級）

外務省に出向して在外公館に派遣。初めての海外勤務で戸惑うことも多かったが、在外公館の職員として我が国の外交の一翼を担う。

内閣官房へ出向（役職：係長級）

インテリジェンスの受け手である内閣官房に出向。当庁が提供する情報が用されている場を実際に見て、情報の重要性を改めて実感。

本庁総務部（役職：公安調査官）

本庁総務部の広報担当部署に配属。当庁のプレゼンス向上のための施策を検討。

中部局調査第二部（役職：公安調査官）

国外関係の情報収集業務に従事。上司や先輩の指導を受け情報収集の基礎を学ぶ。

本庁調査第一部（役職：公安調査官）

本庁で採用後、当庁や人事院が開催する各種研修を受け、調査第一部に配属。配属先は調査第一部全体の調整部署であり、他課室との調整業務を経験。

1st Year

2nd Year

4th Year

6th Year

8th Year

10th Year

15th Year

18th Year

本庁調査第二部（役職：上席調査官）

分析担当者となり、日々現場から送られてくる報告書を隅々まで確認し、関係機関に提供する資料を作成する。

求められる役割

一般職職員には、政府の重要施策の推進に貢献可能な情報の収集・分析をすることができるスペシャリスト人材としての役割が求められます。そのため、専門性を伸ばすために特定の専門分野に関する知見・経験を多く積むことになります。

異動・転勤

各公安調査局で採用され、原則として採用された公安調査局とその管内に所在する事務所において、まず情報収集のスペシャリストとして育成・処遇されます。能力・適性に応じて情報分析のスペシャリストとして育成・処遇される職員もいるほか、幅広い知識と経験を積むため、本庁、他の公安調査局や事務所、他省庁などで勤務する場合があります。

モデルケース

課長補佐級職員

本庁調査第一部（役職：統括調査官）

課長補佐級職員として部下職員の管理が中心業務に。部下の分析結果や部下が作成した資料について綿密に協議を行い、修正を施した上で、関係機関に提供。

本庁調査第一部（役職：上席調査官）

本庁勤務となり、現場で情報収集を行っていた分野の分析担当に。現場での経験を活かして、各地方局の情報収集担当者に調査指示を発出し、政府要路に提供する資料を作成。

東北局調査第一部（役職：上席調査官）

東北局に戻ったタイミングで係長級職員となり、部下を指導することに。自分の業務と並行して部下指導を行うため、苦勞も多かったが、部下の情報収集が成功した際の喜びは大きかった。

盛岡事務所（役職：主任調査官）

東北局管内の盛岡事務所に異動。新たな環境で上司や後輩と協力して業務を遂行。

東北局調査第一部（役職：公安調査官）

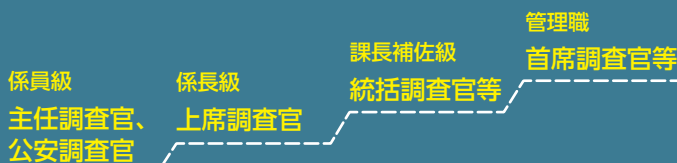
業務にも慣れてきたところ、初めて重要な情報の収集に成功。自分が集めた情報が政府高官に報告されると本庁よりフィードバックを受け、業務への意欲が更に増す。

東北局調査第一部（役職：公安調査官）

東北局で採用後、国内関係の情報収集業務に従事。情報の世界の最前線で働けることに期待で胸が膨らむ。

公安調査官のキャリア

公安調査庁の職員として採用されると公安調査官として任用され、その後、主任調査官、上席調査官、統括調査官等を経て、首席調査官等（管理職）へと昇進します。総合職職員は採用後おおむね10年で本府省の課長補佐級、一般職職員は採用後おおむね10年で係長級へ昇進します。



様々な脅威から 国民を守るための最前線。

調査部の業務と役割

公安調査庁の任務の力を握る「調査業務」。2つの部に分かれて国内外の様々な情報を精査し、より確かなものへと昇華させています。

調査第一部

Mission 主に国内関連情報の収集・分析を行う、国内関係調査の司令塔。

我が国には、地下鉄サリン事件等を引き起こしたいわゆるオウム真理教や過激派、右翼団体等の公共安全に影響を及ぼすおそれのある団体が数多く存在しています。



本庁調査第一部では、全国の国内関係調査の“司令塔”として、これら国内諸団体の警戒すべき動向などに関する情報の収集・分析を行い、得られた情報を、官邸を含む政府関係機関等に適時・適切に提供しています。また、破壊的団体や無差別大量殺人行為を行った団体に対する団体規制として、オウム真理教に対し、団体施設に対する立入検査を始めとして、観察処分を適正かつ厳格に実施し、その活動状況を明らかにして、国民の生活の平穏を含む公共安全の確保に寄与しています。

調査第二部

Mission 激動する国際情勢の中、情報の力で国民を守る。

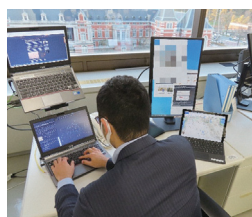
近年、米中対立の激化等を背景に、経済安全保障の重要性が増しています。米国は中国の軍民融合による先端技術獲得を懸念し、半導体など重要分野で輸出規制や対外投資規制を強化している一方で、中国は米企業への制裁や重要鉱物の輸出規制を実施し、対立が深まっています。

我が国においても、技術・データ・製品等の入手を企図する国家や組織・個人等が、一見して無害であるように装って取引・交流を持ち掛けるケースが把握されています。

サイバー空間では国家やその関与が指摘される主体等による諜報活動や重要インフラの破壊といったサイバー攻撃の脅威が深刻化しており、我が国の国民生活や経済活動に対する深刻な脅威となっているほか、偽情報の拡散による民主主義への影響が懸念されています。

さらに、北朝鮮の核・ミサイル開発の更なる進展、中国・ロシアの我が国周辺海空域での軍事活動の活発化など、周辺国の動向も地域の安全保障上大きな懸念となっています。国際テロ情勢も、依然としてISILやアルカイダ関連組織が各地で活動する中、我が国もテロの対象と位置付けられており、警戒が必要です。

調査第二部は、主に国際的な脅威に関する情報収集・分析を行っており、こうした激動する国際情勢の中、「情報の力」で国民を守っています。



戦後最も複雑かつ厳しい安全保障環境下での インテリジェンスの役割

現下の安全保障環境は、戦後最も複雑かつ厳しいものである。ロシアのウクライナ侵略が長期化し、北朝鮮軍の派遣にまで至る一方、中国は「中華民族の偉大な復興」を掲げて軍備拡張と先端技術獲得に邁進し、台湾統一への野心を露わにしている。米中対立は経済・技術・安全保障など全領域で激化し、AI・量子・バイオなど次世代技術をめぐる覇権争いが展開される中、再登場したトランプ政権は「米国第一」を掲げ同盟国に自助努力を迫る。もはや日本は他国依存で安全を確保できず、自ら主体的に国家安全保障に向き合う必要がある。

国家安全保障を支える「外交力・防衛力・経済力・技術力・情報力(インテリジェンス)」のうち、インテリジェンスは他の全ての「力」を横断的に支える「目」であり、「頭脳」である。外交や防衛といった対外行動も、経済力や技術力を梃子とする競争力強化も、正確な情勢認識と将来予測なくしては成立しない。国家安全保障戦略が掲げる主権・独立の維持や国民の生命・財産の保護を達成するためにも、インテリジェンスは不可欠の存在である。

インテリジェンスの作用は5つに整理できる。第1に、外部からの侵略・テロ・スパイや内部の反乱など脅威を察知し未然に防ぐことで国家安全保障に直接貢献する。第2に、外交・防衛・経済・技術各分野で政策立案を支援し、誤情報による国策の誤りを防ぐ。第3に、経済安全保障の面で他国依存を減らし自律性を高めつつ、国際社会で不可欠な存在となる戦略を構築する。第4に、政府内の不確実性を評価し、危機に迅速対応するリスク管理を担う。第5に、同盟国・同志国等との情報共有を通じてテロ防止や犯罪対策、安全保障協力を推進し、国際情報ネットワークの信頼ある一員となる。

今後はAI・量子・バイオ等の分野における先端技術がインテリジェンスそのものを変質させ、サイ



北村 滋 Shigeru Kitamura

北村エコノミックセキュリティCEO
元国家安全保障局長・内閣特別顧問
元内閣情報官

Profile

東京大学法学部卒。1980年警察庁入庁。1983年6月フランス国立行政学院(ENA)に留学。在仏大使館一等書記官、警備局外事情報部外事課長、内閣総理大臣秘書官、内閣情報官などを歴任し、2019年9月第4次安倍内閣の改造に合わせて国家安全保障局長・内閣特別顧問に就任。同局経済班を発足させ、経済安全保障政策を推進。2021年7月退官後は経済安全保障法制に関する有識者会議委員を務める。米国防総省特別功労賞、豪情報功労章、仏レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、台湾大綬景星勲章を受章。

バー空間やモバイル・エコシステムなど新たな戦場が出現し、偽情報との戦いも激化する。かかる環境で国家を守るためには、膨大で複雑な情報を読み解き、政策決定に結びつける知性が不可欠である。インテリジェンスは危機を未然に防ぎ、平和と安定を保つ「見えざる土台」であり、国家を陰で支える重大かつ崇高な使命である。諸君がここに志を抱くことは、単なる職業選択ではなく、国家存立を支える礎となる道を選ぶことにほかならない。

多様な未来と活躍の場。

他省庁出向／在外公館

公安調査庁では、人材交流と多様な経験を積むことを目的として職員を積極的に他省庁へ派遣しています。

各省庁や在外公館への派遣

当庁では、人材交流や組織外で多様な経験を積むことを目的に、当庁職員を他の関係省庁や在外公館へ派遣しています。他省庁との人材交流では、内閣官房を中心に職員を派遣しており、専門性を活かしつつ、異なる業務経験を積むことで職員が更に成長できる機会となっています。また在外公館への派遣は、外務省へ出向の上、我が国の外交官の一員として当庁で培った経験を海外でも発揮する場となっています。

当庁外でのこうした多様な経験と機会は、公安調査官としての経験発揮と更なる人材育成につながるものとして、当庁では積極的に職員を他省庁に派遣しています。



他省庁出向

各省庁の個性豊かなメンバーと充実した日々を送っています。 令和4年入庁（総合職(院卒)・女性)

近年、安全保障の裾野は経済分野まで拡大しており、経済安全保障政策の強化は我が国の国益を守るために重要な課題となっています。出向先は、そんな経済安全保障に関する業務を行う部署です。この部署には情報コミュニティを構成する各省庁のみならず、様々な省庁からの出向者が集まっているため、部署内の各チームも多種多様なバックグラウンドを持った職員で構成されています。チーム内では各々の知識や経験を活かして議論・検討を重ねていますが、私自身も公安調査庁の出向者として、本庁での分析業務や現場での経験を活かして業務に当たっています。

出向先の業務は関係省庁会議の開催や関係省庁や民間からの問い合わせ対応など幅広く、目まぐるしい毎日ではありますが、各省庁から集まった個性豊かなチームメンバーとともに、充実した日々を送っています。

多様な同僚と協力して業務を進め貴重な体験をしています。 令和6年入庁（選考採用係長級・男性)

現在派遣されている組織において、サイバー関係業務に従事しています。関係機関や民間等と連携することで我が国のサイバー対応力の強化を図る役割を担っており、官民連携における情報交換の場としての会議体の立ち上げに関わっているほか、日本国外の動向把握や知見を深めるために海外出張も経験するなど、国際的な視点で検討する機会も得られています。

職場では他省庁や民間企業等からの多様な同僚と協力して業務を進め、人脈と専門性を深められており、当庁とは異なる貴重な経験を積むことができています。

在外公館

**宗教や文化の違いや語学の壁に奮闘。
自身の成長や学びにつながりました。**

平成28年入庁（総合職(院卒)・女性)

採用7年目に外務省へ出向し、3年間アジア地域の大使館に勤務しました。大使館では、他省庁出向者などを含む様々な職員と協力し合いながら業務にあたりました。

私がいた大使館では、各職員の裁量が広く比較的自由に業務に従事できる代わりに、その業務量も膨大であり、現地の政治・法律・経済・文化・宗教事情をインプットしつつ、情報収集・報告等を行い、いかなる情報が我が国に寄与するのかを考え続け、日々鍛えられました。

組織の違いはもとより、宗教や文化の違いや語学の壁等に奮闘しながらも何とか任期を全うでき、自身の成長や学びにつながったと思います。

今回、他省庁に出向することで当庁には無い点を学び、同時に外から客観的に見ることで、改めて当庁の良い点に身をもって気づくことができました。こうした貴重な経験を糧に、当庁での業務に取り組みたいと考えています。

**当庁で培ってきたスキルを
外交官としても発揮することができました。**

平成27年入庁（総合職(経験者採用係長級)・男性)

私は令和2年に外務省に出向の上、欧州地域のとある在外公館に赴任しました。現地では欧州が世界各国とそれぞれどのような外交を展開しているかについて、割り当てられた地域担当のもと情報収集にあたりました。

当時は新型コロナウイルスの感染拡大真っ只中であり、社会的な制約がありながらも、何とか外交官として人脈を構築し情報収集できるように苦心しました。赴任3年目に差し掛かるころにはロシアによるウクライナ侵略が勃発し、外交官としてそれまでに培った人脈を駆使しながら、我が国の外交政策にとって必要となる情報の収集に努めました。たとえ言語が違えど、人脈を形成して必要な情報を収集することは、当庁でも培ってきたスキルであり、外交官としても発揮することができたと考えています。

私生活では趣味の卓球を現地のクラブでも続け、現地の人々と交流を深め、充実した日々を送ることができました。

情報を扱うエキスパートは ここから生まれる。

研修／幹部登用制度

公安調査庁では、職員の実務能力・専門性の向上を図る各種研修を整備しているほか、職員を積極的に幹部に登用する制度を設けています。

研 修

充実した設備とプログラムでエキスパートへの道をフォローアップ

育成ポリシー

【採用前に必要な知識・技能・資格などはありません】

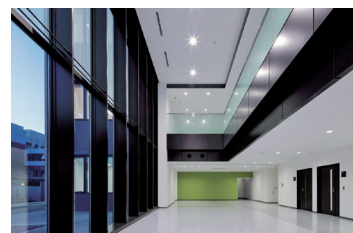
所管法令や調査対象団体の組織・沿革といった知識、調査を行うための技能など、公安調査官として必要な能力が習得できるよう、新規採用者に対し採用後相当期間かけて丁寧な研修を行います。

【専門性を向上させる研修も用意しています】

公安調査局等の調査担当者や本庁の分析担当者など、専門性の高い知識や技能が必要とされる業務に従事している職員を対象に、調査技能や分析能力の向上に資する研修を実施しています。

【必要な語学力も身に付けることができます】

調査業務や分析業務などにおいて外国語能力が必要とされる職員を対象に、様々な言語の研修を実施しています。



幹部要員へ登用する制度

優れた職員を能力・実績に応じて当庁の明日を担う幹部に抜擢

当庁では採用年次や合格した採用試験区分等にとらわれず、勤務成績が特に優秀で、マネジメント能力に優れたやる気のある職員を幹部要員候補として計画的に育成・処遇する独自の制度を設けています。幹部候補に選ばれた職員はその後の成績に基づき、当庁各部局の幹部として数多く抜擢されています。

誰にも成長の扉は開かれている。

本庁調査第二部課長級職員 平成5年入庁（国家Ⅱ種・男性）

公安調査庁には、一般職員を幹部に登用する独自の制度があります。自分の能力をより高いレベルで活かしたい方にはお薦めです。私は、平成5年に関東公安調査局で採用され、国内関係調査に従事した後、本庁で主に国外関係業務を担当しました。

転機となったのは、平成16年、幹部登用制度により、幹部候補となったことです。その後、総務部勤務、短期在外研究を経て国外関係業務に戻りましたが、こうした過程で、経験を蓄積し、スキルアップする様々な機会に恵まれ、自分に合ったキャリアパスを形成する上で選択肢が大きく広がりました。

現在は、本庁で分析や関係省庁への情報提供等に当たる業務のマネジメントを行う一方、民間企業や大学向けに講演を行うなど、忙しくも刺激のある毎日を過ごしています。

高い職位には責任が伴いますし、自らを磨き続ける必要もありますが、あなたにも成長の扉は開かれています。公安調査庁で、より高い目標にチャレンジしてみませんか。

公安調査庁への期待

冷戦が終結して四半世紀が経った。安保理常任理事国のロシアが、今、ウクライナを侵略している。冷戦後期、西側と共に旧ソ連に対峙した中国は米国に迫る巨軀となったが、今や自由世界に背を向けてロシアを支援し、アジアの覇権を狙っている。ロシア側に立ってウクライナ戦争に参戦した北朝鮮は、ロシアの技術支援を受けて核開発に余念がない。

戦後、核兵器を含む巨大な軍事力で日本を庇護し、時には日本と激しい貿易戦争を戦った米国は、世界経済の四分の一に縮小し、トランプ大統領は「アメリカファースト」を掲げて保護主義色を鮮明にし、外国の武力紛争への関与を忌避するようになった。

時代は変わった。日本は、国家としての生存本能を全開にし、新しい時代を生き抜く覚悟を持たなければならない。何よりも焦眉の急は、インテリジェンス機能の強化である。

戦後、日本のインテリジェンス界は、治安と防諜（カウンターインテリジェンス）を主任務とする警察庁と公安調査庁によって担われてきた。しかし、警察出身者が歴任する内閣情報官が率いる内閣情報調査室は、戦時に対応する軍事部門を持たない。残念ながら、外務省は、平時の外交活動を越えた危険な工作活動から手を引いた。戦後生まれた防衛省

は、専守防衛の立場からの軍事情報収集と分析に特化してしまった。

日本の国と国民に危害を加えるものは、外国機関であろうと、自然の災害であろうと、おしなべて監視の対象である。一人の国民も傷つけさせない。そのためあらゆる手段を使って情報を集めるのがインテリジェンス機関である。国家と国民の生死にかかわる問題を他国に依存することは許されない。

公安調査庁は、逮捕権限を持たない。治安機関と言うよりも真正インテリジェンス機関と言う方が正しい。法務大臣隷下ではあるが、その鋭い眼光は、国内のみならず、遠く国外の脅威にも及んでいる。厳しさを増す安保環境の中で、公安調査庁の責任はますます重い。

兼原 信克 Nobukatsu Kanehara

笹川平和財団 常務理事
元 国家安全保障局次長

Profile

1959年山口県生まれ。東大法学部卒業後、外務省入省。条約局国際法課長、北米局日米安全保障条約課長、総合外交政策局総務課長、欧州局参事官、国際法局長などを歴任。国外では欧州連合、国際連合、米国、韓国の大使館や政府代表部に勤務。2012年発足の第二次安倍政権で、内閣官房副長官補（外政担当）、国家安全保障局次長を務める。2019年に退官後、2020年から2025年3月まで同志社大学特別客員教授を務める。2023年より笹川平和財団常務理事。2025年4月より麗澤大学特任教授。2015年仏政府よりレジオンドヌール勲章を受勲。



INTERVIEW

公安調査庁に所属する者として伝えたいこと。



業務内容は特殊ですが、 実は、魅力たっぷりの職場です

人事課長 武田 雅之 平成7年入庁（国家I種・男性）

皆 さん、こんにちは。本冊子を手にとっていただき、ありがとうございます。公安調査庁について「よく知らない」という方もおられると思いますので、私からは、当庁の「魅力」について紹介します。

○ やりがい

まずは、なんと言っても業務自体のやりがいです。当庁業務は大きく現場の情報収集業務と本庁の分析業務に分かれますが、このうち、現場においては、自らの経験や個性・特技などを活かして調査を遂行し、若手であっても、政府の重要施策に資する質の高い情報を入手できるチャンスがあります。また、本庁では、自らの分析結果が政府高官に提供されるなど、自身の業務が我が国の施策に直接貢献していることを実感できます。

○ ここでしかできない仕事

当庁は、庁全体でヒューミント（人的情報収集）を専門に行っている結構特殊な組織です。人を介して情報を入手する仕事においては、相手は多種多様で、成功への道は一つとは限りません。高度情報を取るために誰にアプローチし、どのように情報を取ってきてもらうかなど、各担当官が、自己研さんしながら、自分に合った形で創意工夫して進めます。そして、得られた情報を用い、実は様々なところで各種事案の未然防止に貢献しています。経験を積み重ねた「情報収集のプロ」「情報分析のプロ」が、平穏な生活を守るために日々奮闘しているんです。

○ 充実した研修

情報収集・分析のプロになるには、組織をあげての教育が必要です。当庁では、若手職員に対し、公安調査官として必要な能力を習得するための研修を、十分な期間実施しているほか、専門性の高い業務に従事する職員を対象に、調査技能や分析能力の向上に特化した研修を、階層別・分野別に設けています。また、外国語能力が必要とされる職員を対象に、様々な言語の研修も行っています。

○ 働きやすさ、職員に優しい職場環境

最後に、職場環境ですが、職員に、「仕事とプライベートの両立は実現できていますか？」というアンケートをとったところ、約95%の職員から肯定的な回答がありました。実際、職員の有給休暇取得率は高く（R6年度平均取得日数は18.6日、年間20日間の有給休暇が付与されます）、時差出勤・フレックスタイム制度も広く活用されており、多くの職員が、自己啓発・趣味に充てる時間や家族との時間を、十分に確保しながら働いています。

かくいう私も、結構な頻度で有給休暇やフレックス等各種制度を使い、家族や友人とキャンプや温泉に行ったり、明るいうちからカラオケなどを楽しんだりしています。

以上、公安調査庁の「魅力」について述べてきましたが、いかがでしたか？まとめると、当庁は、

(名前のイメージとは違って…) 快適に働きながら、(「情報」という独特な世界で…) 成果を身近に実感でき、

(仕事をしながら自然に…) 自己成長できる職場

であると、自信を持って言えます。

当庁業務は、性質上、表に出ないことが多く、業務内容も特殊でなかなかイメージしにくいと思いますが、実は、魅力たっぷりの職場です。皆さんも、こういう職場で「情報」の力で、国民を守る」という崇高な使命を果たすべく、一緒に働きませんか？

長年職員として業務に携わってきた中で感じる「公安調査庁の魅力」。その思いを皆さんへ伝えます。

達成感とチャレンジ。

渉外広報調整官 市川 慶 平成12年入庁（国家1種・男性）



私 は入庁して約25年になります。これまで官房にあたる総務部での法令関係や広報関係の業務、主に国外関係を扱う調査第二部での総合調整や分析業務のほか、二度の出向など多様な業務機会に恵まれました。

こうした中で、私なりに公安調査庁をアピールするとすれば、政策決定者による情報要求、計画、収集、処理、分析、政策決定者への報告・情報部門へのフィードバック・新たな情報要求といういわゆる「インテリジェンス・サイクル」がかみ合ったときの達成感があります。情報業務は、ある種の孤独さが伴います。全ての情報が成果に結実するわけでもありません。それゆえにこそ、我々の提供した情報が、カスタマーである政府のアクションに着実につながり、そのフィードバックによって、さらに情報活動が高度化する、こうしたサイクルを目の当たりにすると、「情報の力で国民を守る」が偽りでないことを強く実感します。また、そのような良質で時宜にかなった情報の多くは、現場調査官の創意工夫と誠実さによって得た、情報ネットワークとの強固な信頼関係によってもたらされていることも付言しておきたいところです。

続いて申し上げたいのは「チャレンジ」ですね。まず、インテリジェンス自体が、我が国においては、未だ発展可能性に溢れていると思います。加えて、私の入庁時は、いわゆるオウム真理教に対する最初の観察処分が決定されて間もない頃でしたが、その後、国際テロ、北朝鮮の核開発や大量破壊兵器の拡散、周辺国との関係、サイバー、経済

安全保障、偽情報・影響力工作などと新たな課題が次々に現れました。情報収集・分析の場となる空間も、現在、フィジカルなものに匹敵するほどにオンライン空間の重要性が増えています。こうした変化に対応していくことは、簡単ではありません。新たな課題に対し、情報の収集、分析、提供のエコシステムを構築するのは、相応の困難を伴います。

公安調査庁は、こうした変化に、努力と工夫を重ね、時には時代を先取りして、適切に対応してきたと言ってもよいと思います。今後も当庁においては、新たな課題が現れてくるでしょうし、いかなる部署においても、こうしたチャレンジに溢れていると思います。是非、皆様と一緒に挑戦していきたいです。

ちなみに、直近の広報業務で言えば、そもそも当庁の業務性質上多くを語れないという制約がある中においても、諸外国の情報機関による広報事例等も研究し、少しでも多くの方に当庁を知っていただくために工夫を重ね、広報強化に努めてきました。これもやりがいのあるチャレンジだと思います。

とりとめもない話でしたが、皆様に当庁の魅力を知っていただく一助になれば幸いです。



職員による 座談会



任務を通じて感じた情報収集・分析の 難しさ・やりがい・面白さについて聞く

参加者

調査第一部
小野寺課長

平成8年入庁(国家Ⅰ種)
男性・課長級

総務部
高澤専門職

平成16年入庁(国家Ⅱ種)
女性・課長補佐級

総務部
川本調査官

令和4年入庁(総合・大卒)
女性・係員級

◆ 公安庁の職員として日々働く中でやりがいを感じる瞬間はありますか。……………

小野寺課長 私は30年近くこの仕事をしており、現在は管理職員になりましたが、現場で集めた情報が本庁に集まってきて、それが一つの絵になって、その集合体が政府中枢においていかに使われているかというインテリジェンスの全体が見える立場にいます。今の立場になって改めてこの仕事のダイナミズムみたいなものが肌感覚としてよくわかるようになりました。

さらに、収集した情報をまとめて有益なものにして、それを政府要路など適切な場所に的確に届けることによって、公共安全や外交安保のために貢献することができる、そこに携われるという喜びを感じながら仕事ができているなと思っています。

現在、政府全体でインテリジェンスの重要性が叫ばれる中で、我々は以前と変わらずに自負心を持って仕事をしています。最近では経済安全保障やサイバー空間上の動きに関する情報の収集に力を入れています。これらの

情報を施策に活かしていただいております、目の前でその動きが見えるのは、やはり楽しいですね。

高澤専門職 当庁の情報貢献業務には収集、分析、提供という三つの流れがあり、私はキャリアの多くで情報提供の部分に携わってきました。そのため、我々のインテリジェンスが、どう役に立つのかというのを目の前で見られる部署をずっと経験してきました。我々の入手した情報が政府の施策に活かされている場面を間近で見ることができるのも、一つのやりがいです。

川本調査官 四年間のキャリアの中で一番やりがいを感じたのは、二、三年目の現場調査です。若手ながら自身で努力して入手した情報について、本庁から「あなたの情報を資料に使わせてもらいました」とフィードバックをもらい、「自分の仕事の方向性は間違っていなかったんだな」と思った瞬間は、特にやりがいを感じました。

◆ 志望動機や入庁前にインテリジェンスに関連してどのような興味があったか教えてください。……………

高澤 私は、平成13年の同時多発テロが起きたときにアメリカに留学していました。まさに渡米した2週間後ぐらいに起きた出来事でした。その日の朝、起きてニュースを見たら「ワールドトレードセンターに飛行機が突入した」と報道されていて、最初は事故かなとか思って学校に行くと、その日の授業は全部キャンセルになっており、飛行機も飛んでいない状況でした。そこで私が驚いたのは、事件後の新年度にインテリジェンス概論という授業がいきなり始まったんです。その授業に感銘を受け

たことが、当庁を志望するきっかけになりました。

小野寺 私が学生の頃、国家公務員になりたい、国のために働いてみたいなという漠然とした思いがまずあり、いくつかある関心に治安や安全保障がありました。そうした中、当庁を訪れてみたら明るくて優しい感じの採用担当の職員がいたんですね。面接が進んでいく中で、職員の方の人当たりの良さや人間性、働きやすさのようなものを感じ、当庁を選びました。

◆ 働き方やプライベートの過ごし方について教えてください。……………

小野寺 当庁はワークライフバランスのメリハリが効いているイメージです。その代表例が、男性職員の多くが育児休業を取得されていることでしょうか。家族と十分触れ合って、また職場に帰ってくる人、自分の人生の守るべきものをちゃんと見据え、職場に戻ってくる人がかなり多いなと思っています。

私も、休日は仕事のことを全く考えずに子供と過ごし

ていますが、自己研さんのためにプライベートの時間を使う人ももちろんいて、そういう時間も十分に確保できていると思います。

高澤 私は当庁の制度を利用して国内の大学院に行かせていただきました。職場を起点とした人間関係が広がるなど、職場とプライベートが良い影響を与え合っており、とても有意義に過ごしています。

◆ 公安庁のおすすめポイントは？……………

小野寺 当庁の組織文化としては、色々なバックグラウンドを持つ人がいて、各々それを活かして仕事をしていることだと思います。とりわけ情報収集業務はこれといった正解がなく、若い時から自分がある程度主導権を持って、いろいろ企画をして動いていける。そして、その成果を身近に感じられるというような雰囲気があります。

もう一つは、いい意味で実力主義みたいところがあって、例えば一年目の職員が現場でいい情報を入手できたら、当然他のベテラン職員と同様に平等に評価されます。どのような場面でも年功序列というわけではないところが、当庁の良い点の一つだと思います。

高澤 当庁は、職員同士で協力して仕事を進めることが多いという文化があると思います。例えば、複数の専門分野を持った職員が協力して一つの資料を作成することがあり、その際、自身の専門分野の知識だけでなく、他分野の専門知識を知る良いきっかけとなることもあります。

当庁には協力しやすい文化があり、組織の規模が大きいせいか、上司や幹部職員との距離が近く、気兼ねなく直接意見を伝えることができます。

川本 私も風通しが良い環境にいるなと思います。上司や先輩方が特に意識しているのかもしれないですが、幹部の方たちで話し合った内容を頻繁に共有して下さるので、幹部の方たちが当庁をどう動かしているかとか考えているのかが分かるのはありがたいですね。

小野寺 色々な仕事があるので、分析を極めたい人や机に座っているより現場で動き回りたい人もいて、中には両方やりたいという人もいますね。

川本 やはり輝ける場所はどこかで見つかりますよね。現場で良い情報を入手する人もいれば、分析ではすごくセンスを発揮する人もいます。総務関係でもきめ細やかにしっかり仕事をする人もいますので、自分の輝ける場所は、当庁のどこかにあると思います。

◆ 上司や部下に助けられた経験があれば、具体的に教えてください。……………

川本 現場一年目の時の話です。当時、国外関係の情報収集担当になり、完全にゼロから私自身が練り上げた企画を進めることになったのですが、実際始めてみたところ色々な課題が生じて、企画そのものが頓挫するかもし

れないという状況になりました。しかし、私の上司が、具体的な道筋を示してくれた上で、親身に課題解決に向けた方策について相談に乗ってくれたおかげで、無事企画を進めることができました。

職員による 座談会



小野寺 我々は特殊な経験を積んで当庁に入ってきたわけではなく、普通の学生生活をしていて、普通に試験を受けて、公務員として入ったんですよ。情報を収集しようという時のある種の戸惑いや困難さというのは、

皆よくわかっているので、部下や後輩を助けたいという思いが強い。我々の仕事自体、情報を取ってくるのが重要であり、そのための人材が命ですので、人を育てることも組織としての使命なんです。

◆ どのような人に入庁してほしいですか？

小野寺 当庁の場合、分析や情報収集はOJTや研修で学んでいく部分が多いので、事前に必要な知識や資格というものはありません。当庁の業務に興味があれば十分です。

ただ、向いている方のイメージはいくつかあって、すごくコミュニケーションが得意な人も活躍できるだろうし、それは自信がないけれどもいろいろなデータを見たり、本を読んだりするのはとても好きですという人、あるいは語学であったり、何かの技能とか才能がありますという人も大歓迎です。多様な人材を求めている職場と言えますね。

高澤 最近は新卒の人だけでなく中途採用の方も多く働いているので、バラエティ豊かですよ。経験豊かな

方は入庁後も様々な分野で活躍しており、そういった人材の豊富さが当庁の強みになっていると思います。

川本 現場では、自分で考えて実行に移せるという側面もありますね。だから、自分で考えて動きたいという人には、当庁の現場はものすごくやりがいがあると思います。

小野寺 世界中の情報機関の傾向として言えることかもしれませんが、組織としてとても良い仕事をしました、政府の施策に大きな貢献をしましたと言っても、世間一般の人にはその貢献自体は知られない、脚光を浴びない側面がある。それでも自分の信念に基づいて、縁の下の力持ちみたいなことを続けられる人、自分の中の芯を持って業務に臨んでいける人に向いていると思いますね。

◆ 未来の同僚となる就活生の方々にメッセージをお願いします。

川本 普通の生活では知ることのできない情報に触れたり、会えない人にたくさん会ったりする機会があるので、その経験自体が本当に面白いものだと思います。あと、自分で考えて自分で動くことを柔軟にやらせてもらえる職場なので、チャレンジ精神のある方にとって自分自身が成長する機会がたくさんある面白い職場だと思います。

高澤 当庁では、情報収集と分析の各プロフェッショナルがコラボし、様々な切り口で収集された情報を多角的に分析しているので、現場と本庁の連携が本当に大事です。求められている情報を正確につかみ、最適なタイミングで、必要とする相手に迅速に届ける。この“情報貢献”は、当庁の大きな強みです。決して簡単な仕事ではありませんが、情報を先取りして起きてはいけない事態を未然に防ぐという、目立たないけどクールでスマートな業務がかっこいいと個人的には思っています。

「情報マン」という仕事は生涯をかけて取り組める魅力的な仕事だと思うので、この座談会を通じて当庁の仕事に興味を持っていただいた皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

小野寺 私自身、本当に普通の学生で、当庁に入りましたが、情報を扱う組織の職員としての心積もりみたいなものは徐々に身につけていくものなのではないかと思っています。変化の速い世の中で、真実はどうなっているのか、どうすればそれを知ることができるのかという好奇心を強く持っている方に是非お越しいただきたいです。

映画で見るような派手な世界では決してありませんが、世の中の別の側面を知るといって、胸が躍るような他では得がたい経験をすることができる職場だと思いますので、そのようなことに興味・関心ある方と一緒に働くことができれば嬉しいなと思います。

自分らしく働きたい。 その思いに応える配慮がある。

ワーク・ライフ・バランス

公安調査庁では、男女を問わずそれぞれの家庭における出産・育児・介護等の必要に対応しながら、公務にその能力を発揮できる職務環境を整備しています。様々な支援制度の利用を奨励し、職員の「仕事と家庭の両立」を推進しています。



仕事も家庭も趣味も充実させたい。ここにはそれを実現できる環境がある。

職員の個別事情に合わせた働き方ができる環境がある

平成22年入庁(課長補佐)(国家Ⅰ種・女性)

3人の子の育児と仕事の両立に奮闘する毎日です。一人目の子の育児休業からの復職時、当時の上司は業務量の軽減や、急な休みにも対応できるよう自分で進捗を調整しやすい業務の担当にする等の配慮をしてくださいました。しかし自分自身、思うように仕事時間を取れず、経験を積みみたい時期に育児を最優先にせざるを得ない状況で、自分で望んだこととはいえ忸怩たる思いがありました。

そんな時、同僚からフレックスタイム制の利用を勧められ、勤務時間を見直しました。子供の保育園への送りを夫に任せ、自分は7時から働くことでフルタイム勤務に戻すと

ともに、上司と相談の上、責任のある業務や他律的な業務も担当させてもらえるようになりました。

コロナ禍の折には、当庁にもテレワークという業務形態が導入されました。機微な情報を扱う当庁では、テレワークが普及している部署と、補完的に利用している部署がありますが、育児と仕事の両立に悩む職員にとって、両立を手助けする一つの手段となりつつあります。何より、職員の個別事情に合わせた働き方ができる環境を整えようとする組織の風土が、当庁での働きやすさに繋がっていると感じています。

配偶者同行休業を利用しました

平成19年入庁(課長補佐)(国家Ⅰ種・男性)

私が在外公館での勤務を終え家族と日本に帰国してから5年後、今度は、妻が海外に赴任することになりました。当初、私は日本に残り、家族バラバラで暮らしていましたが、コロナ禍で日本との往来が全くできなかったこと、以前は妻にサポートしてもらっていたので、今度は自分の番という想いがあったことから、配偶者同行休業取得を決意し子供達と渡航しました。まだまだ男性の帯同休業が珍しい中ではありますが、職場からは快く送り出していただき感謝しかありません。

現地では、同じ境遇の「駐夫」もほとんどおらず、苦勞も数多くありましたが、受験を控えた子供達のサポートをしたり、世界遺産巡りをしたりと、家族の絆が深まる貴重な期間でした。

休暇や勤務時間の制度を柔軟に活用

平成23年入庁(上席調査官)(国家Ⅱ種・女性)

私の趣味は登山で、夏の7～9月には北アルプスや南アルプスなどを訪れ、心身をリフレッシュしています。これら人気の山域は、山小屋や登山口までの交通機関の予約が早くから埋まるため、数か月前から日程を調整し、平日に休暇をとって出かけます。この時期は特別休暇である夏季休暇を3日間取得できますが、長期あるいは複数回行くためにはそれだけでは足りないため、有給休暇と組み合わせています。例えば水曜日から土曜日までの3泊4日で登山し、翌日の日曜日を休息日に充てることで、混雑を避けて登山を満喫でき、疲れを残すことなく出勤できます。

現在の職場は、休暇や勤務時間の制度を柔軟に活用できる環境にあり、計画的に働くことで趣味と仕事を無理なく両立できています。



**インテリジェンス業務の醍醐味の一つは、
自分で収集・分析した情報報告書が、政府の中枢で読まれ、
それが政策決定に寄与するかもしれないという点だ**



小谷 賢 Ken Kotani

日本大学危機管理学部教授

Profile

日本大学危機管理学部教授。立命館大学卒業、ロンドン大学大学院修士課程修了、京都大学大学院博士課程修了。防衛省防衛研究所主任研究官、英国王立安全保障研究所(RUSI)客員研究員、参議院事務局企画調査室客員調査員、ロンドン・スクール・エコノミクス(LSE)客員研究員などを歴任。専門は国際政治学、外交史、インテリジェンス研究。主な著作に『インテリジェンス』(ちくま学芸文庫)、『日本インテリジェンス史』(中公新書)など。YouTubeチャンネル「小谷賢/インテリジェンス研究」にて当庁職員との対談等を配信中。

インテリジェンスとは、様々な手段によって情報を収集・分析、評価して生み出される、国家の政策判断に必要な情報だ。諸外国ではこのインテリジェンス活動によって、外交や戦争を優位に導いた例が多々存在するため、今でも多くの資源がインテリジェンス活動に投じられている。それらはスパイのような人的情報(ヒューミント)だけでなく、通信傍受情報(シギント)、地理空間情報(ジオイント)、さらには公開情報(オシント)など多岐にわたる。そしてこれら収集した情報を集約して分析することで、世界の真実に近づけるのである。例えば2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻では、その数か月前から米国政府は世界に対して、ロシアによる軍事侵攻を警告していたが、これは米国のインテリジェンス活動による所が大きい。他方、我が国の周辺の国々も軍事増強に力を入れている状況なので、危機を察知するためのインテリジェンスの重要性は今後、益々重要となってくるだろう。

公安調査庁は日本の省庁の中で、唯一、情報収集と分析に特化した情報機関だと言える。他の政策官庁の場合、情報部局はあれど、数年ごとに政策や運用部局にも配置されるので、インテリジェンス業務を継続することは難しい。公安調査庁の場合は入庁した段階から、「公安調査官」として継続して業務に携わることになる。そのため、何十年も特定の国をウォッチしてきた調査官などは、大学の研究者では取れないような一次情報入手し、学者顔負けの分析を披露することもある。ただし外国の情報機関のように、海外で身分を偽装しての情報収集や、破壊工作活動のようなリスクを伴う活動は行っていない。インテリジェンス業務の醍醐味の一つは、自分で収集・分析した情報報告書が、政府の中枢で読まれ、それが政策決定に寄与するかもしれないという点だ。このように国の政策に直結するような仕事を与えてくれるのが、公安調査庁という組織なのである。

情報収集のプロになれ

物事を判断したり、分析するに当たって情報収集は、極めて重要だ。だが、情報とはデリケートなものであり、切り札になることもあれば、致命的な「毒」となることもある。なぜなら、情報には発信者の意図があるからだ。

その意図を知らずに、入手した情報を信じてしまうと、時に相手の陥穽に填まるかもしれない。真実に近い一級の情報であっても、それをベースに行動したことが、情報源を利する手助けをしてしまう場合もある。あるいは、情報源は真実と信じているファクトが、実はウソだったという場合もある。

それでも、情報を常に収集し、見極め続けなければ、求める成果を上げられない。ましてや国家の維持となれば、情報収集力こそが、国力であると言えるほど重要な要素だ。

国家とは、国民の命と生活を守り、国益を向上させるのが使命だ。そして、公安調査庁のような

インテリジェンス機関は、その国家の使命を下支えする極めて重要な役割を果たしている。

他の先進国と比較すると、日本にはインテリジェンス機関がなく、スパイ天国と世界から揶揄されている。だが、公安調査庁は、着実かつ地道に情報収集と精査を続けてきた。ただ、これまであまりにその存在が知られていなかっただけだ。

インターネットが普及し、SNSが国家を揺るがすほどの勢力となりつつある現代社会において、インテリジェンス機関の果たす役割は、ますます重要度を増し、それとともに公安調査庁の活動にも関心が集まってきた。私自身も注目している一人だ。

インテリジェンス機関とは、上記のように厄介な情報収集を正確に行うための努力を惜しまず、結果を出すことを求められる。その活動の真髄は、さりげなくしたたかに、そして、常に人間観察を怠らずに根気よく続ける——だ。決して派手ではないが、極めて尊い職務だ。

コロナ禍や外国での滞在経験などを経て、若い世代の中に、日本を守りたい、あるいは大切にしたいと考える人が増えてきた印象がある。ITやAI全盛時代の中で、人とのコミュニケーションを通じて、国を思う気持ちを大切に人が活躍する場が、ここにはある。

真山 仁 Jin Mayama

小説家

Profile

1962年大阪府生まれ。同志社大学法学部政治学科卒。新聞記者、フリーライターを経て2004年『ハゲタカ』で小説家デビュー。同シリーズや地熱発電開発を舞台にした『マグマ』、東京地検特捜部の検事が主人公の『売国』『標的』、日本の財政破綻問題を描いた『オペレーションZ』、日本最強の当選請負人が主人公の『当確師』などがドラマ、映画化されている。その他ノンフィクションの『ロッキード』や新書『疑う力』など、幅広い社会問題を現代に問う作品を発表している。近著に『ここにいるよ』（2025年12月刊）、『チップス ハゲタカ6』（2026年2月刊）など。



インテリジェンスの力で 我が国の経済安全保障の確保に寄与

【経済安全保障の担い手として】

経済安全保障をめぐり、各国が科学技術・イノベーションに関する政策に注力する中、我が国では、経済安全保障上重要な技術を「知る」、「育てる」、「生かす」そして「守る」といった統合的なアプローチの下で各種取り組みが進められています。公安調査庁は、このうち、特に「守る」取り組みに注力し、我が国が“強み”を有する技術、データ、製品等を不当に手に入れようとする国家、組織、個人等(以下「懸念主体」という。)の動向に関する情報を収集・分析しています。

経済安全保障の議論が我が国で注目され始めた頃、公安調査庁は、既に懸念主体による我が国保有の先端技術等の獲得企図に関する情報の収集・分析に取り組んでおり、得られた情報を政策立案や法執行を担う関係省庁に提供することで、技術等の流出防止に寄与していました。そして、現在まで一貫して、動きの速い経済安全保障関連情勢に対応しながら、関係省庁等の情報ニーズに応え続けており、政府内における公安調査庁に対する期待も高まっています。

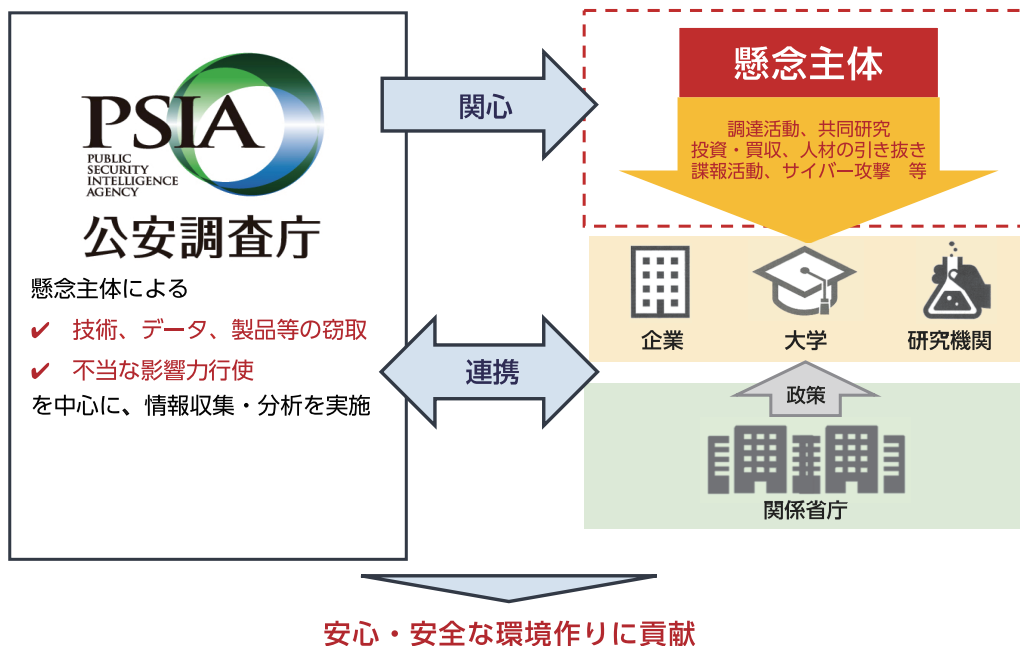
【経済安全保障の確保に向けた公安調査庁の取り組み】

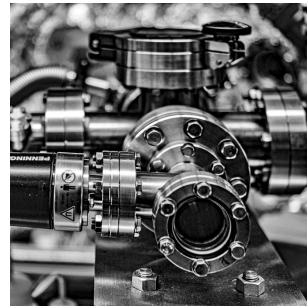
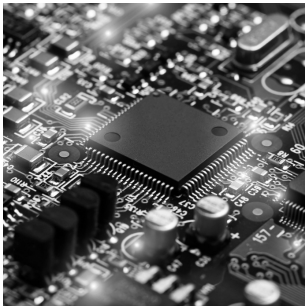
ここでは、公安調査庁における経済安全保障関連の取り組みの全体像を紹介します。

公安調査庁は、長年にわたり、核兵器を始めとする大量破壊兵器及びその運搬手段の拡散防止に向けた情報の収集・分析に取り組んでいます。大量破壊兵器等の開

発につながるおそれのある取引については、外為法に基づき我が国からの輸出が厳しく管理されていますが、懸念主体が第三国を経由したり、違法な手段を用いたりすることで、我が国企業等から必要な物資を調達してきたことが判明しています。懸念主体の調達手口は巧妙かつ

公安調査庁における経済安全保障の確保に向けた取り組みのイメージ





複雑であるため、これを探知することは容易ではありませんが、懸念主体に狙われ得る企業や大学との連携を深め、調達企図の把握に努めています。

また、企業や大学が行う通常の経済活動や学術活動の中には、懸念主体が我が国の強みである先端技術を獲得しようとする動きが紛れ込んでいることがあります。企業や大学の技術が意図せず流出するリスクがあるこうした動向は、近年、我が国の経済安全保障を脅かすものとして注目されています。公安調査庁は、長年培ってきた調査・分析のノウハウを駆使して、これらの動向把握にも取

り組んでいます。

また、公安調査庁の業務は、情報の収集・分析及び分析結果の提供であり、政策の立案や輸出管理を所掌していませんので、経済安全保障の確保に貢献するためには、政策立案や法執行を担う関係省庁のほか、懸念主体から狙われ得る企業や大学に、分析した情報を適時・適切に共有することが重要となります。このため、関係省庁とは日頃から連携を図っているほか、我が国からの重要技術・情報等の流出防止のため、企業や大学等向けのセミナーなどを行い、注意点等の共有に取り組んでいます。

【 経済安全保障関連業務のやりがい 】

我が国では近年、経済安全保障推進法の制定や外為法の改正等、経済安全保障の確保に向けた政策的な取り組みが進められてきました。各省庁が政策立案を行う際には通常、それぞれが収集・保有する情報を活用することが一般的とされますが、経済安全保障分野においては、公安調査庁が収集・分析したインテリジェンスが政策立案等の議論に役立てられています。公安調査庁の使命である「情報の力で、国民を守る」を实践する最前線の一つと言って良いでしょう。

また、公安調査庁は、企業や大学等が懸念主体による技術等の獲得に巻き込まれないよう、懸念主体の手口やその対策を共有する講演活動にも積極的に取り組んでいます。講演を聴講した企業関係者等からは、「講演で紹

介された事例と類似の商談があり、トラブルを回避することができた」との声をいただくこともあり、これは、企業や大学からの技術流出等の防止に直接貢献しているとの手応えを感じる瞬間です。

最後に、令和4年12月に改訂された国家安全保障戦略では、我が国が優先する戦略的なアプローチの一つとして、「経済安全保障政策の促進」が掲げられました。我が国の経済安全保障を取り巻く情勢は、それ以降も日々、大きく変化しており、今後も経済安全保障の重要性は高まっていくとみられます。公安調査庁は、この重要性の高まりに合わせて取り組みを一層強化し、引き続き、我が国の経済安全保障の確保に貢献していきます。

Q どのような人材を求めていますか？

A 国内外で脅威が多様化する中で、我々も多様な人材を求めています。その上で、(1)様々な人や物事に興味を持ち、(2)未経験の状況においても主体的に考えて行動し、(3)仕事相手や担当業務に対して責任感を持って臨む人材を期待しています。

Q 入庁に際して必要な資格はありますか。

A 実際の調査業務や分析業務等で必要な知識や技術は入庁後の研修等で習得できるので、入庁に際して特別に必要な資格等はありませんが、様々な知識や技術を身に付けようとする熱意のある方を歓迎します。

Q 休日出勤や超過勤務はありますか。

A 公安調査官は、面談相手からの情報入手や団体の活動状況の調査など、相手に合わせて業務を行う必要がある現場調査や、関係機関への情報貢献のため迅速に資料を作成する必要がある分析業務に従事するため、夜間や休日に勤務することもあります。夜間に勤務をした場合は超過勤務手当が支給されますし、休日に勤務をした場合には勤務日を代休に代えるなどして、きちんと休暇が取得できるようにしています。

なお、休日は、土曜日・日曜日・祝日・年末年始以外にも、有給休暇として、年間20日間(4月採用者は15日間)の年次休暇(20日間まで翌年に繰り越すことができます)のほか、特別休暇(夏季・結婚・忌引など)などがあります。

Q 調査に危険はありませんか。

A 調査にあたっては、上司と綿密な打ち合わせを行った上で、チームで行動するので、危険が及ぶことは極めて少ないと言えます。また、上司や先輩のアドバイス・研修を受けつつ、経験を積み重ねることによって、危険性はより一層少なくなっています。

採用情報

公安調査庁では、原則として人事院が実施する国家公務員採用試験の合格者から、人物本位で職員を採用しています。過去5年間の採用実績は表のとおりです。

	令和8年度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
総合職 (院卒)	2 (2)		3 (1)	1 (0)	1 (1)
行政	2 (2)		2 (0)		1 (1)
人間科学			1 (1)		
工学				1 (0)	
総合職 (大卒)	4 (1)	8 (2)	4 (1)	4 (2)	2 (1)
法律	1 (0)	3 (0)		3 (1)	2 (1)
経済		1 (1)			
政治・国際・人文 (※)	2 (0)	2 (0)	3 (1)		
人間科学				1 (1)	
教養	1 (1)	2 (1)	1 (0)		
工学					
一般職 (大卒)	61 (36)	70 (23)	57 (22)	45 (21)	26 (9)
行政	54 (31)	68 (23)	56 (22)	45 (21)	26 (9)
デジタル・電気・電子		1 (0)	1 (0)		
教養	7 (5)	1 (0)			
一般職 (高卒)	2 (1)	5 (1)	12 (7)	9 (4)	
事務	2 (1)	5 (1)	12 (7)	9 (4)	

※ 令和6年度まで実施されていた「政治・国際」区分を含む。

() 内は女性の採用者数



終

戦から80年以上が経過し、国内外情勢が複雑化する中、長らく「インテリジェンス後進国」などと言われてきた日本において、ようやくインテリジェンスの必要性や重要性が認知されつつあります。

今や、政府のみならず、自治体や民間企業、学術研究機関などにおいても、インテリジェンス能力の強化が当然の課題として語られるようになっており、私は、インテリジェンスが日本における最大の「成長分野」の一つであると考えています。

今後、大きく発展していく可能性がある日本のインテリジェンスを担い、支えるために尽力してみたいとの気概を持つ方が、一人でも多く我々の仲間に加わってくれることを切望しています。

公安調査庁 次長 霜田 仁





ACCESS

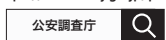
【公安調査庁】

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-1-1 中央合同庁舎 6号館 TEL 03-3592-5711 (代表)



- *東京メトロ「霞ヶ関」駅(丸ノ内線・日比谷線・千代田線) A1又はB1a出口、徒歩5分
- *東京メトロ「日比谷」駅(日比谷線・千代田線)及び 都営三田線「日比谷」駅 A10出口、徒歩5分
- *東京メトロ有楽町線「桜田門」駅5番出口、徒歩3分

公安調査庁 公式ウェブサイト
<https://www.moj.go.jp/psia/>



公安調査庁 採用公式X
https://x.com/PSIA_recruit



Instagramアカウント「公安調査庁 公式Instagram」
https://www.instagram.com/moj_psia/



<https://www.moj.go.jp/psia/>